



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆さまと協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.50

地域連携病院④「国民健康保険 勝浦病院」

今回は、勝浦郡勝浦町にある国民健康保険勝浦病院をご紹介します。

■町内唯一の病院

勝浦病院は、人口約5,000人の勝浦町唯一の病院です。同じ町内に診療所もないため、「勝浦町民のかかりつけ医」として診療されています。診療科目は内科、外科、整形外科、小児科、リハビリテーション科で、病床は地域包括ケア病床などを含む50床となっています。

また、勝浦病院は、勝浦町だけでなく、勝浦郡全体で入院設備を有する唯一の医療機関でもあり、勝浦郡における医療の砦とも言えます。へき地医療拠点病院になっており、同じ郡内の上勝町にある診療所の診療支援を行っています。実際にへき地医療の現場に赴くことで、現地の状況把握・情報共有や勝浦病院から退院された患者さんの継続診療ができるようにもなっており、地域医療の要として尽力されています。

■こまめな病状説明と手厚いフォロー

勝浦病院の特色の一つとして、一人の患者さんに対して、ご本人やそのご家族が参加するカンファレンスを頻回に行うことが挙げられます。短期間での入院でなければ、患者さん一人につき入院やリハビリ、退院前などの段階毎に

3回程度行われていきます。長期間入院されている患者さんでは、1か月に1回ほど実施し、その他病状が変わる

都度行います。このカンファレンスは、新型コロナウイルス流行下の面会制限時にも、そのような状況だからこそ病状説明が大切であるとの考えから継続して実施されました。カンファレンスでは主治医から病状、担当看護師から入院中の様子、理学療法士からは食事や更衣などのADL(日常生活動作)の状況を説明するとともに、必要であれば、退院後の患者さんの生活を見据えて、福祉担当の役員職員やケアマネージャー、近隣の介護施設職員、さらには介護用品業者などが出席することもあります。榎原院長によると「勝浦郡では他の地域に比べ、病状説明を求められる方が多いように思う」とのことで、勝浦病院独自のこのカンファレンスは、勝浦郡の地域性に適したシステムと言えるようです。

■勝浦病院の今後について

勝浦病院は令和4年4月、旧病院に隣接した新病院へ移転しました。

榎原院長は、新しくなった勝浦病院の今後の取り組みについて、「今までの取り組みのバージョンアップ」や「他病院との医療情報伝送の実現」、「研修医などの受入による将来的な人材確保」など、さらなる地域医療の充実に向け抱負をたくさん語ってくださいました。



勝浦病院に併設のデイケア施設利用者の作品。モチーフはもちろん、恐竜化石が発掘される勝浦町にちなんだもの

「地域医療連携」について

徳島大学病院患者支援センターでは、大学病院と地域の医療機関との円滑な橋渡しをめざして、大学病院での高度先進医療から、患者さんがお住まいの地域の診療機関と連携し、在宅療養へと継続できるようサポートしています。

問い合わせは

国民健康保険 勝浦病院
徳島県勝浦郡勝浦町大字棚野
字鴻畑13番地の2
TEL.0885-42-2555

■説明は
(下段左から)
榎原 茂(かしはらしげる)院長、
栗飯原 明美(あいはらあけみ)看護師長
(上段左から)
増田 晃代(ますだてるよ)SW、
辰巳 和子(たつみかずこ)地域連携室副室長、
笠木 義弘(かさきよしひろ)事務局長



新しくなった勝浦病院。明るい外来待合と病室の様子

